

# 手を打つなら今のうち……

## 振興局の地域整備部長が2級河川視察

7月14日、新潟県上越地域振興局の白石秀一地域整備部長、棚橋元治水課長が吉川区内の2級河川を視察しました。同振興局の担当部課長が区内の河川の管理状況を視察するのは先月26日の合同陳情に続いて2度目。今回は私も同行させてもらいました。

今回の視察箇所は玄僧川の道之下地内、吉川の東田中地内、入河沢川の河沢地内、平等寺川の泉谷地内、大出口川の泉地内などでした。いずれもたくさんの草木が茂っていたり、土砂が大量に堆積している、大水が出た時に流れの障害となる箇所ばかりです。

白石部長は東田中地内の状況を3年前の梅雨前線豪雨災害の時に見ておられますが、柳の木の生長のスピードが速いのにびつくり、「いまのうちだね、手を打つのは」。この日の視察箇所の中で河川内の木が一番大きくなっていったのは、入河沢川の河沢地内（写真左）でした。「こりや、業者を入れないとだめだ」と言っておられました。

新潟県では3年前の梅雨前線豪雨の際、吉川、柿崎川流域で大きな被害が出たことを重視しています。水害の誘因となるところは早急に手を打ってほしいものです。



## 「半日体育祭」、夏空の下で盛り上がる

13日の吉川区体育祭は、昨年続き、屋外で開催できました。青空が広がって、時折、さわやかな風がグラウンドに流れる最高の体育祭日和でした。今年から吉川区体育祭は半日になり、種目もみんなで楽しむことに力点を置いたものに精選されました。参加者は選手だけでなく、応援者も多かったのが特徴です。主催者の話では1000人を超えたということです。すごいですね。

かで群を抜く強さを発揮していたのは源地域づくり会議でした。本部テントのなかでも、この強さが話題になりましたが、この日のために9日と11日の2度にわたって練習を重ねてきたのだそうです。練習には選手メンバーの100%が参加したわけでもないけど、みんなで力を合わせて勝つ訓練をしてきたチームはやはり強かった。

体育祭を盛り上げる力の1つになったのは、ボランティアのみなさんの活躍です。合併前の上越市の区域から出かけてきて、召集などの係をしてくださった方もありました。



## 京大・岡田教授が講演

くびき野地域問題研究会主催の講演会が13日ありました。講師は京都大学の岡田知弘先生。テーマは合併後のまちづくりをどうすすめるかです。岡田先生の講演を聞くのはこれで3回目になります。いつも興味

深い話の展開とデータの紹介があるので引きつけられますが、今回もそうでした。「合併の動きはまだ終わっていない」「あらたな地域間格差が広がっている」「民間化推進政策の中で、周辺部を中心に住民の生存の危機が広がっている」などの指摘に注目しました。



NO 1355  
2008.7.20

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪法一  
Tel 548-3628 (有線) 4867  
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp  
URL http://www.hose1.jp/